

～Chacott Web Magazine DANCE CUBE 連載

「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」関連企画VI～

～マリインスキー・バレエ公演によせて～

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 69

『ドン・キホーテ』2

展示期間 / 2018年11月13日(火)～12月18日(火)

構成 / 森瑠依子

展示 / 関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

前回に続き、今年生誕200周年を迎えたマリウス・プティパ(1818-1910)の代表作の一つ『ドン・キホーテ』にまつわる品々から、この作品で人気を博したダンサー達を紹介しよう。

＜クセーニヤ・マクレツォワ 1890～1974＞



ポリショイ・バレエ、マリインスキー・バレエ、バレエ・リュス、ミハイル・モルドキンのカンパニー等に参加。テクニックにも感情表現にも優れたバレリーナとして活躍した。キトリが当たり役。1924年、大阪松竹楽劇部に招かれ、『火の鳥』『白鳥の湖』抜粋等を大阪、東京等で上演、好評を博している。(PC-B-096-01/葉書/1914年)

＜ヴィクトリナ・クリーゲル 1893～1978＞



高い技術力と演劇性を誇り、1910年よりポリショイ・バレエで40年近く活躍。アンナ・パヴロワやモルドキンのカンパニーにも参加。1945年にはザハーロフ振付『シンデレラ』で、シンデレラの義母を初演し、好評を博した。

キトリは当たり役の一つ。(PC-B-076-01/葉書/1916年)

＜ナターリヤ・ドゥジンスカヤ 1912～2003＞

& <セミヨン・カプラン 1911～1983>



共に20世紀中頃のキーロフ・バレエのスター。前者は古典作品の他、『ラウレンシア』『シンデレラ』といった新作の主演も務め、1960年代初頭まで看板スターとして活躍。後者は特に『ラ・バヤデー』のソロールで絶賛され、引退後はワグナーノワ舞踊学校指導者、キーロフ・バレエリハーサル監督として、優れたダンサー達を育てた。(PC-GD-006/葉書)

＜マイヤ・プリセツカヤ 1925～2015＞



20世紀を代表する世界的なスターバレリーナの一人。ポリショイ・バレエで『白鳥の湖』『ドン・キホーテ』『カルメン』等を十八番としたのに加え、モリス・ベジャール『イザドラ』、ローラン・プティ『薔薇の死』等、西側の一流振付家との名作も残した。パヴロワが愛した『瀕死の白鳥』は、プリセツカヤの代名詞でもある。当コレクションには、彼女のサイン入りのポストカードが複数

収蔵されている。(PC-B-119-03ws/葉書)

＜ウラジーミル・ワシーリエフ 1940～＞



20世紀を代表する世界的な男性スターの一人で、超絶技巧の持ち主として有名。ポリショイ・バレエで古典および『スパルタクス』等数々の新作で絶賛されたのに加え、プリセツカヤ同様にベジャール『ペトルーシュカ』『ロミオとジュリエット』、プティ『嘆きの天使』等に出演し、世界的に活躍した。『ドン・キホーテ』は彼の華麗なテクニックが発揮された代表作の一つ。(PC-B-165/葉書/1963年)

＜ミハイル・バリシニコフ 1948～＞



映画『愛と喝采の日々』『ホワイトナイト白夜』人気ドラマ『セックス・アンド・ザ・シティ』出演等、バレエ界にとどまらない活動を繰り広げる世界的大スター。キーロフ・バレエ在団中の1974年に亡命、アメリカン・バレエ・シアター (ABT) を中心に世界で活躍した。クラシック・バレエのみならず、モダンダンスにも積極的に取り組み、レパートリーを広げている。『ドン・キホーテ』は彼の人気レパートリーの一つで、後に芸術監督も務めたABTでは、自ら振付けた版に主演した。(PH-D-025-02ws/写真)

＜アルティナイ・アスィルムラトワ 1961～＞

& <ファルフ・ルジマートフ 1963～＞



1980年代のキーロフ・バレエの名コンビ。共にアジア系のテクニシャンで、ABT、英国ロイヤル・バレエ等にも客演、世界的に人気を集めた。前者は引退後、ワグナーノワ・バレエ・アカデミーの芸術監督を務め、現在は母国カザフスタンのバレエ団、バレエ学校で指導にあ

っている。後者は現役のままミハイロフスキー劇場バレエの芸術監督を務め、今秋故郷のウズベキスタンで国立バレエ団の芸術監督に就任した。(PH-C-17-10/写真)

＜薄井憲二 1924～2017＞



昨年12月24日に93歳で惜しくも逝去された当コレクションのオーナー、薄井氏の若き日の舞台姿。1950年代、日本での『ドン・キホーテ』上演は、1952

年来日したソニア・アロワと小牧正英によるグラン・パ・ド・ドゥ初演に始まり、翌年のミア・スラヴェンスカとフレデリック・フランクリン、1957年ポリショイ・バレエ初来日公演のオリガ・レペシンスカヤとウラジーミル・プレオブラジェンスキーと、世界的なスター達がグラン・パ・ド・ドゥを披露している。全幕版の日本初演は1965年。ゴールスキー版に基づくスラミフ・メッセレルと谷桃子の改訂振付で、谷桃子バレエ団が行っている。



Chacott Web Magazine 【DANCE CUBE】連載中
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」
(text 森瑠依子)



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用